

● はじめに ●

学生の頃に、わからないことを調べて理解するということに大きな喜びと楽しさを感じ、「将来は学会で発表できるようになりたい」と思うようになりました。その後、研究指導を受けるなかで、研究成果発表のゴールは学会発表ではなく論文発表であるということを知りましたが、当時の「学会で発表したい」という思いが研究への一つのモチベーションとなつたことは間違いないです。

このような思いで研究を行い、はじめて学会で発表したときの高揚感は今でも鮮明に覚えています。はじめて書いた抄録は、指導教員に何度も指導を仰ぎながら作成しましたし、はじめて作成したスライドは何度も何度も指導教員にダメ出しをもらいました。また、学会の1ヶ月以上前から読み原稿を作成し、夜な夜な何度も発表練習を行い、当日は過度な緊張状態で発表に臨みました。これだけ準備しても、質問は座長から社交辞令的にいただいただけという散々な結果でしたが、学生の頃に抱いた目標を達成できたという高揚感は何物にも代えがたいものでした。あくまで論文発表が最終ゴールになりますが、このときの高揚感がその後の論文執筆のモチベーションを高めるきっかけになったことはいうまでもありません。

私が感じたこの高揚感を多くの方にも抱いていただきたい、そして論文執筆のはじめの一歩になってほしい、という思いから本書では、あくまで学会発表を第1段階のゴールとして捉え解説をしています。学会発表までのプロセスを①準備期、②企画期、③実施・まとめ期、④成果期の4つの期に分類し、時には実体験も交えながら解説を行っています。今から研究をはじめようとする方、学会発表がとても高いハードルになっている方、研究にアレルギーがある方、そのような方々に役立つ情報をまとめています。

『研究デザイン』、『統計解析』、『サンプルサイズ』、『バイアス』等々、研究を行う際には、大量の聞き慣れない（聞きたくない）単語に足止めを食らうことになります。本書では、このような専門用語も丁寧に拾い上げながら、できる限り難しい表現は避けています。例えるなら、足止め要因になっている障害物も乗り越えられるような、補助具のような書籍です。

まずは、学会で発表するという目標に向かって、本書とともに一歩踏み出してみませんか？

2016年9月

山田 実